給水装置工事申込書 (正・副)

令和 年 月 日

大井上水道企業団

企業長 様

この申込書及び添付図書に記載の給水管装置工事の計画は、大井上水道企業団水道事業給水条例及び給 水条例施行規程並びに指定給水装置工事事業者規程に基づき、申し込みます。

た。 	お、今回	リ(/) 上事	∳甲 し≀ 	△み、M 	31.VCD				7 ·> 1H	, C/III/1	XE.				. 9 o
申、、、	住	所										置場所 四個番号		-	
込	フリ	ガナ									 ∕z=				
者	氏	名								_	続	克 标	<u>为</u>		
設置	- 計申込 - <u></u>	. 場 所									電	話番号	클 -		_
給水	装置原	所有者									町	丁 名	3		
エ	定 給事 事	水業	表 置 者 名	電話番	号()			-	工事事	業者	番号	- 指第 		号
	水 装 任 技		L 事 者 名						5	免状の	交付	番号	第		号
給力	K Ι Ξ	事のき	種 別	1.	新設	2	. 改造	3	3. 仮	設	4. 4	修繕	5.	廃止	
給水	装置	工事の	内容	1.	屋内	- ・屋外	配管工具	事 2	: 屋	_ 外配管	工事	3.	屋内配金	管工具	
建	築 物	の利	重 別	一般	住宅	•	一般建築	築物	•	集合住	宅	•	草売住宅	(宅地	分譲)
建築	 物の相	毒造・	階数	木造・ その(造・R	C (C (B)		棟 区画		階建	(集合	往宅室	数	室)
量	水器	のに	□ 径	φ	mm	個	工事着	手手予	定日	令和		年		月	日
				·			工事完	1	定日	令和		年	J	月	日
				必要	(□申	請中)	・不要	自	家	用	水	道	有	•	無
		済証					• 不要	- ^							_
		設 承		1	公要		要		有	効	容	量			m^3
		者分岐為		业	/要	• 不	要	槽	設	置	笛	所	地上	•	高置
そ		か <u>終</u> 来	他	ず中に書	·)+ 7	· 司(りの切み	担山子	· Z						
							り2部を 頁を記入					料調書		図面及	び必要に
備	応じ 不備 3. 承認	て、私 fのない 各種占 なするこ	有地埋 ように 用許可 ととな	設承諾 申請す 「を必要 こるため	書、結 る。 とする 、工期	合水管原 5工事に 明選定に	所有者分	理者よ するこ	り許 と。	可証のろ	交付を	受けて	から、糸		、書類に 置工事を

- 5.確認標交付時に設計審査手数料を、量水器の出庫時に、開栓請求書提出及びを加入分担金と開 栓手数料を合わせて納める。
- 6. 給水装置工事の承認後に、量水器設置場所の変更、分岐工事使用部材の変更、給水栓の増減等 が必要となった場合、給水装置工事申込変更申請書を必要書類と合わせて提出する。
- 7. 給水装置工事が完了した時は、給水装置工事検査申請書に給水装置工事申込書(副)の写し、竣 工時数量を記入した屋外(屋内)配管使用材料調書、竣工時の各図面、各種写真等を添えて企業団へ
- 8. 給水装置工事検査完了後、工事検査手数料を納める。

給水装置工事申込変更申請書(正・副)

令和 年 月 日

大井上水道企業団

企業長様

下記の給水装置工事において、給水装置に変更が必要となったため、必要書類を添付し申請します。

給水	申込	受付	年月	日	令和	年	月	目	受		付		番		号	第		- 号
確認	な 標 ダ	を付金	年 月	日	令和	年	月	目	確	認	標	交	付	番	号	第		- 号
申	住			所														
込	フ	IJ	ガ	ナ														
者	氏			名														
設情	置 申	込	場	所														
給力	く装	置列	育	者														
指江	定 総事 事		装者	置名	電話番	:号()	_			工事	事事	業 者	番号	号 揹	旨第		号
	水 装 任 技		工者	事名							免状	その	交 付	*番	号	第		号
給力	、エ	事の)種	別	1.	新設	2.	改造	3	3. (反設		4.	修繕	Î	5.	廃止	•
給 才変	く装更	置工内	事	の 容	1.	屋内	• 屋外酉	2管工事	: 2	2. 厚	屋外	配管	工事	3	.)	屋内四	配管工	事
添	付	書	ŧ	類	変	更平面	i図、変	更立面	図、	その)他	()
主																		
な																		
変																		
更箇																		
所																		
変																		
更																		
理																		
由																		
4	•																	

給水装置工事屋外配管使用材料調書

申込者住所	施工場所		指定工事事業者	設計	日 令和	年 月 日
氏 名	給水装置所有者		主任技術者	竣工	日 令和	年 月 日
材料名	口径	器 具 品 番 等	の規格等規格・型式・認証番号	使 用 設計時	数 量 竣 工 時	備考

給水装置工事屋内配管使用材料調書

申込者住所	施工場所		指定工事事業者	設計	- 日 令和	年 月 日
氏 名	給水装置所有者		主任技術者	竣工	日令和	年 月 日
材料名	口径	器 具 品 番 等	の 規 格 等 規格・型式・認証番号	使 用 設計 時	数量竣工時	- 備 考

給水装置工事検査申請書

令和 年 月 日

大井上水道企業団

企業長様

給水装置工事事業者

住 所

事業所名

代表者名

給水装置工事主任技術者

氏 名

下記の給水装置の工事が完了したので、検査を申請します。なお、別紙のとおり給水装置を確認し、異常がないことを合わせて報告いたします。

記

- 1. 給水装置工事承認番号
- 2. 給水装置の設置場所
- 3. 給水装置工事の申込者名
- 4. 給水装置の所有者名
- 5. 給水工事の完了年月日 令和 年 月 日

給水装置工事主任技術者

下記のとおり、給水装置工事の確認を行いました。

氏 名

承	認	番 号	令和	年度	第			号	確認実施日	令和	年	月		日
給才	く装	置設置場所												
給申	水業	装置工事 込 者					給	水装	置所有者					
			確		認				項		I			
	1	宅地内所有者	の承諾はある	るか		有・無	路	28	舗装の仮復旧は	よいか			良•	否
承	2	家屋所有者の	承諾はあるか	7		有・無	面	29	公道の舗装復旧	はよいか			良•	否
	3	私有地埋設の	承諾はあるか	7		有・無	復旧	30	本舗装復旧は完	了したか		*	良・	否
諾	4	給水管分岐の	承諾はあるか	7		有・無	Щ	31	占用工事の復旧	状況写真は有	ずるか	*	良•	否
	5	占用工事の許	可及び承認	はあるか		有・無		32	給水装置は竣工	図どおりか		*	良•	否
	6	宅地内の深さ	は適切である	カュ		良・否		33	量水器の位置は	竣工図どおり	カ ゝ	*	良•	否
	7	公道内の深さ	は適切に布記	受してある だ	<i>j</i> ,	良・否	竣工	34	止水栓の位置は	竣工図どおり	カ ゝ		良•	否
防	8	立上がり管の際	防寒は十分で	ごあるか		良・否	図	35	管種・口径は竣工	[図どおりか		*	良•	否
	9	2階以上の立_	上がりは各階	にバルブ	があるか	良・否		36	縮尺は間違いな	いか		*	良•	否
護	10	露出管の固定	は適切か			良・否		37	範例は明瞭か			*	良•	否
	11	防護工事を施	エしたか			良・否	既	38	受水槽の配管に	問題はないか	1		良•	否
	12	その他構造物	との離隔は十	一分か		良・否	設	39	プール等の逆流	防止はよいか			良•	否
管	13	指定材料・工法	去に問題はな	いか		良・否	管そ	40	死水の生じる恐れ	いはないか			良•	否
継手	14	継手類は規格	品を使用した	こか		良・否	の他	41	既設管は十分水	圧に耐えられ	るか		良•	否
類	15	インサートリンク	グを取り付け	たか		良・否) LE	42	クロスコネクション	/は生じていな	いか	*	良•	否
	16	水栓類は規格	品で検査品	を使用した	カュ	良・否		43	量水器を正方向	に取付けたか		*	良•	否
水	17	水栓の選定は	適当か			良・否	そ	44	水圧テストを実施	iし写真の添付	けはあるか	*	良•	否
栓	18	フラッシュに真	空破壊装置	が付いてレ	るか	良・否	の (4)	45	水の出はよいか			*	良•	否
類	19	特殊器具の承	認は受けてい	いるか		良・否	他	46	ウォーターハンマ	ーは起こらな	いかっ		良•	否
	20	ボールタップの	り性能は良い	カン		良・否		47	その他異常はな	ハツァ		*	良·	否
	21	メーターの取作	付位置は良い	カュ	*	良・否	1	庯	考					
メー	22	メーター検針し	易いか		*	良・否								
タ	23	メーターの凍糸			*	良・否								
止	24	ベストップバル), ×	良・否								
水	25	箱内に汚水の	流入の恐れ	はないか	*	良・否	.							
栓	26	箱内の中央に	配置されてい	いるか	*	良・否								
	27	メーター前後の	の配管状態は	はよいか	*	良・否								

注意1:『※』の項目は大井上水道企業団でも特に検査を行います。 注意2:該当しない項目には斜線を引いて下さい。 注意3:アパート等複数のメーターを設置する場合、施主に引き渡す前に検査を実施します。検査員と検査日程を打ち合わせて下さい。各部屋とメーターの関連を確認しますので各部屋と量水器の対応表(自由様式)を持参して下さい。

給水装置工事屋外配管使用材料調書

申 込 者 住 所 島田市金谷東一丁目1255-2	施工場所島田市	金谷東一丁目1255-2	旨 定 工 事 事 業 者 ㈱○×水道	設	計日 令和 25	年 4 月 1 日
氏 名 大井上水道企業団 企業長	給水装置所有者 大上水	道企業団 企業長 主	任技術者 大井 太郎	竣	工日 令和 26	年 3 月 31 日
材 料 名	口 径	器具の	778	使 月		備考
	·	品 番 等	規格・型式・認証番号	設 計 時	竣工時	
サドル付分水栓(ボール式) 鋳鉄管(粉体管用防食コア付)用	ϕ 100mm \times ϕ 20mm	JI-EAD	JWWA B 117 ; 2007	1.0	個 1.0 個	
水道用ポリエチレン管ワンタッチ継手 分・止水栓用	φ 20mm	OP-J	G-268 (JWWA)	3. 0	個 3.0 個	
水道用ポリエチレン管ワンタッチ継手 PPエルボ	φ 20mm	OP-L	G-268 (JWWA)	4.0	個 6.0 個	
水道用ポリエチレン管ワンタッチ継手 メーター用ユニオン	φ 20mm	OP-M	G-268 (JWWA)	1.0	個 1.0 個	
水道用ポリエチレン2層管(PP)	ф 20mm		JIS K 6762 ; 2004	15. 0	m 16.5 m	
管明示シート(アルミ)W=150mm	_	アルタランシート·S		10.0	m 10.0 m	
耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HIVP)	φ 20mm		JIS K 6742 ; 2007	1.0	m 1.0 m	
シーリング止水栓	φ 20mm	ZR-G20	E-450 (JWWA)	1.0	個 1.0 個	
メタルパッキン(止水栓用)	φ 20mm	PK-MJ		3.0	枚 3.0 枚	
バルブボックス(φ100mm×400mmパイプ付)	_	SSV100B		1.0	個 1.0 個	
量水器ボックス(大井上水道企業団マーク入)		MB-20SF		1.0	個 1.0 個	
開閉防止式ベストップバルブ L形	φ20mm × φ13mm	MV-BT-TL	E-220 (JWWA)	1.0	個 1.0 個	

給水装置工事屋外配管使用材料調書

申 込 者 住 所 島田市金谷東一丁目1255-2	施工場所島田市	金谷東一丁目1255-2	指 定 工 事 事 業 者 ㈱○×水道	設言	十日 令和 25	年 4 月 1 日
氏 名 大井上水道企業団 企業長	給水装置所有者 大上水	道企業団 企業長	主任技術者 大井 太郎	竣コ	二日 令和 26	年 3 月 31 日
材料名	口径	器 具 品 番 等	の規格・型式・認証番号	使 用 設計時	I	備考

		提出書類チェック	 ク表		
		書類名称等	提出部数	チェック	備考
		給水装置工事申込書(表紙)			必須
		位置図] [必須
	給	案内図			必須
	水	大井上水道企業団配管図(1/1000)			必須
	装置	平面図	. +,		必須
給	工事	配管立面図	2部 (正副)		必須
水申込時	争申	屋外(屋内)配管使用材料調書	(112 д 3)		必須
込	込	建築確認済証(写し)			
時	書	私有地埋設承諾書			
		給水管所有者分岐承諾書			
		その他必要な書類			
	道路	(河川)占用許可申請書	3部		
	小規	模貯水槽水道台帳	1部		
	簡易	専用水道台帳	2部		
変	給水	装置工事申込変更申請書(表紙)			必須
変更申	平面	図(変更)	2部		必須
込	配管	立面図(変更)	(正副)		必須
時	その	他必要な書類			
量水	給水	使用(変更)届出書	1部		必須
水器	預金	口座振替依頼書	1部		
出庫	加入	分担金	必要な金額		
時	開栓	手数料 	必要な金額		
		給水装置工事検査申請書(チェックリスト含む)			必須
	<i>4</i> Δ	給水装置工事申込書(副)(表紙の写し)			必須
	給水	給水装置工事申込変更申請書(表紙の写し)			変更のあった場合
	装置工	案内図			必須
	直工	大井上水道企業団配管図(1/1000)(竣工)			必須
完了	事	平面図(竣工)	1部		必須
時	検 査	配管立面図(竣工)			必須
	申	屋外(屋内)配管使用材料調書(竣工)]		必須
	請書	水圧テスト実施状況写真] [必須(屋内外工事分)
		その他必要な書類]		
		埋め戻し状況写真(本舗装復旧含む)			(占用工事実施分)
	ベス	トップバルブ閉栓用キャップ	設置数個		

水圧テスト実施状況写真は、テストポンプ接続箇所が解るように撮影したもの、ゲージが明瞭に撮影されたものを添付して下さい。

私有地埋設承諾書

令和 年 月 日

給水装置工事申込者 住所

氏名 印 TEL

このたび貴殿が所有する、下記の土地に給水管を埋設して、大井上水道企業団が給水している水道水を受水し水道水を使用したいので、下記の土地内に給水管を埋設することにご了承願います。

尚、今後本承諾に関し紛争が生じたときは、大井上水道企業団には迷惑をかけず、当事者間で一切を解決し、給水装置所有者又は使用者に異動があるときには、私が本承諾を継承させます。

記

- 1. 給水管埋設土地の地番
- 2. 地 目 1. 宅地 2. 畑 3. 田 4. その他()
- 3. 給水装置所有者氏名
- 4. 分 岐 の 位 置 別紙図面のとおり
- 6. 給水管埋設距離
- 7・給水管の埋設方法 別紙図面のとおり

私が所有する土地に給水管を埋設し、大井上水道企業団からの水道水を使用することに承 諾いたします。

尚、今後本承諾に関し紛争が生じたときは、大井上水道企業団には迷惑をかけず、当事者間で一切を解決し、土地所有権に異動があるときには、私が本承諾を継承させます。

令和 年 月 日

土地所有者 住所

氏名

給水管所有者分岐承諾書

大井上水道企業団 様

この度、私 甲 住宅を新築するにあたり、る 分岐し給水するにあたり次の	乙 の所有する既存宅内給水管 』	た に より
1. 本工事により、水量・ 迷惑をおかけいたしません。 甲乙間にて解決いたしまっ		切こ
2. 分岐給水管の維持管理(ます。	においては、甲が自己にて管理・点検・修繕い	たし
3. 給水装置所有者又は使えを継承させます。	用者に異動が生じたときはそれぞれが承諾書の	内容
	令和 年 月 日	
	甲住所	
	氏名	
	乙 住所	
	氏名	ED

給水装置一部先行工事等注意事項承諾書

給水装置の一部を先行して施工、または、残存させることに関する注意事項

- ・穿孔した穴が閉塞して、出水不良が起こる恐れがあります。
- ・経年劣化等により、漏水が発生する可能性があります。
- ・計画が変更となり給水装置が不要となった場合には、分水栓より撤去していただきます。
- ・給水装置一部先行工事に起因する、すべての不具合の改善に要する費用は、 給水装置所有者の負担となります。

大井上水道企業団 様

上記の内容を十分理解し、不具合が起こった場合の費用負担を承諾し、給水装置 工事を申請いたします。また、このことは、給水装置所有者を変更した場合にも継 承いたします。

令和 年 月 日

住所

申請者

氏名

給水管管理に関する承諾書

大井上水道企業団 様

この度、私が		地内	で執り	行う約	合水装置	量工
事において、量水器が官民境から	っ大幅に離れてい	いるため	、量水	器一眼	手側の 約	合水
管についても、私が自己にて維持	音理することを	承諾し	ます。			
また、給水装置所有者(または、	使用者)に異動な	が生じた	こときに	t, <i>zo</i>)承諾書	喜の
内容を継承させます。						
		会	介和	年	月	H
	住所					
申請者(給水装置所有者	•)					

氏名

 $\stackrel{\text{(EII)}}{}$

大井上水道企業団給水装置工事申込書について

1. 給水装置工事申込申請について

(1) 給水工事の種別

•新設工事

配水管から新たに分岐する工事や、新規に量水器を設置する工事とします。

基本的に加入分担金が発生します。

量水器口径により加入分担金額が変わります。詳しくは、ホームページ の「水道工事等業者向けページ」→「各種料金表」に記載していますので ご確認下さい。

• 改造工事

既存の給水装置に、新たな給水装置を増減させる工事とします。

例:一般住宅の建替え工事、自家用水道から上水道への切替工事、漏水 修理に伴う切廻し工事等。

新たに配水管から分岐し、給水管を増縮径する工事の場合、旧給水管は、 分岐止めとして下さい。(廃止工事相当)

増径に伴う加入分担金は、差額分を徴収します。

縮径に伴う加入分担金は、返金しません。

• 仮設工事

仮設事務所等で、使用期間が概ね6ヶ月未満の給水装置を設置する工事 とします。加入分担金は発生いたしません。

使用期間が概ね6ヶ月を超えるようであれば、新設工事又は、改造工事となります。新設工事の場合は、加入分担金が発生します。

• 修繕工事

既存の給水装置を修繕するための工事とします。

• 廃止工事

給水装置を廃止する場合の工事とします。

分岐止めを原則とし、サドル付分水栓コックでの閉栓又は、分岐チーズ の撤去をして下さい。

加入分担金は、返金しません。

(2) 給水装置工事の内容

·屋内 ·屋外配管工事

配水管からの分岐(又は止水栓)から給水栓までの一貫した工事。 新規に量水器を取りつけ、給水栓を設置する場合に、加入分担金が発生 します。

• 屋外配管工事

配水管分岐から量水器1次側までの工事。

止水栓止めの場合、工事申込書『その他』の欄に明記し、先行工事等に 関する承諾書を提出して下さい。

·屋内配管工事

量水器2次側から給水栓までの工事。

水質保持の観点から、使用材料には日本水道協会認証材料を使用して下 さい。

新規に量水器を取りつけ、給水栓等を設置する場合、加入分担金が発生 します。

地下式散水栓の設置は雨水、汚水等の逆流の恐れがあるため、原則禁止 としています。但し、事前協議により逆流の恐れがないことが確認できた 際には、申請を認める場合があります。

・屋外配管工事の原則事項

原則として1区画に1分岐、交差点内での分岐はできません。

1区画に2分岐以上の給水装置がある場合には、使用しない給水装置は 廃止工事とし給水申し込みをして下さい。

分岐口径は φ 2 0 mm以上。

量水器ボックスの設置箇所に関しては、原則官民境より概ね2.0m以内とし、駐車スペース、花壇、ガスボンベスペース等、維持管理が困難となる場所にならない様に、配慮して設計して下さい。設置箇所が平面管路延長で概ね2.0mを超える場合は、別途協議の上決定することとし、別途給水装置工事に関する承諾書を添付していただくこととします。

・屋外配管工事の指定材料

屋外配管工事においては、企業団の管理上工法・材料の指定があります。 サドル付分水栓

ダクタイル鋳鉄管からサドル付分水栓により分岐工事を行う場合、布 設年度によりモルタルライニングと、エポキシライニングが存在するた め、確認が必要となります。 (エポキシライニングはGX形より採用) **密着コア**

CIP用サドル付分水栓に使用する防食コアには『密着コア』を使用して下さい。なお、コアの挿入に関しては各メーカーの指定する挿入機を使用して確実に取り付けることとします。

- *前田バルブ工業㈱拡張式防食用密着コア(品番SA-RM、SA-RP)
- *前澤給装工業㈱密着コア (コード921006)
- *㈱タブチパーフェクトスリーブ(品番 I P)

水道用ポリエチレン2層管・継手

管種は水道用ポリエチレン2層管(1種管)、水道用ポリエチレン管 ワンタッチ継手を使用し、曲げ配管時には原則エルボを使用して下さい。

開閉防止型止水栓(量水器ボックス内に取付)

 ϕ 1 3 mm \sim ϕ 2 5 mmは、量水器 1 次側に開閉防止型止水栓を取り付けて下さい。

*前田バルブ工業㈱製開閉防止式ベストップバルブL形

(品番MV-BT-TL)

*前澤給装工業㈱製逆ボ伸縮止水栓KS型開閉防止型

(コード354732)

※カタログ上のKS型開閉防止2型(コード354621)とは型が違うので注意して下さい。

*㈱タブチ製L止水 盗防TA形青銅蝶ハンドル

(品番BLS-BTA)

※カタログ上のL止水栓逆流防止弁付ボール止水栓(品番BLS) とは型が違うので注意して下さい。

止水栓

宅地内に止水栓を設置する場合、 ϕ 13 mm \sim ϕ 25 mmはシーリング止水栓又は、ボール止水栓(乙形)を使用し、止水栓筐には前澤化成工業㈱製のバルブボックス(検知金属入り)を使用して下さい。

仕切弁

道路上にバルブを設置する場合、青銅製ソフト型仕切弁(丸ハンドル形)を使用し、バルブ筐はアクアインテック㈱製ピットカバー(型式 P C-15HH-1B-213)を使用して下さい。

 $% \phi 30 mm \sim \phi 50 mm$ のバルブを設置する場合は、宅地内でも道路上にバルブを設ける施工方法と同様にして下さい。

量水器ボックス

 ϕ 13mm~ ϕ 25mmは、前澤化成工業㈱製沈下防止型標準タイプ (企業団マーク入り)を使用して下さい。

*MB-20SF (量水器 φ 13・20mm)

*MB-25SF (量水器 φ 25mm)

 ϕ 4 0・5 0 mmの量水器には、前澤給装工業㈱製メーターセットを使用して下さい。なお、事前協議が必要となります。

やむを得ず車乗入部に量水器を設置しなければならない場合には、アクアインテック㈱製量水器ボックス(小型)底板付き(品番KSF-43242A(ϕ 20mmの量水器使用時)等)を使用し、量水器ボックスが破損することがないよう留意してください。

(3)添付書類について

• 原則事項

提出書類の用紙サイズはA4とします。

給水申込書は、建築物等の着手前に必ず提出して下さい。

· 給水装置工事申込書

申込者住所の欄は申込時点での現住所を記入して下さい。

申込者氏名の欄は、フリガナの記入をお願いします。

株式会社→(カ)

代表取締役→(省略)

申込者続柄の欄には、給水装置の所有者となる方との続柄を記入して下 さい。給水装置所有者本人、建築業者等。

申込者電話番号は、現住所の電話番号又は、携帯電話の番号を記入して下さい。

·位置図 · 案内図 · 公図写等

申請箇所が明確に分かるよう明記をお願いします。

・大井上水道企業団 (1/1000) 配管図

当企業団で写しを実費にてお渡しできます。

給水管の取り出し位置(分岐位置)と量水器設置位置を明記して下さい。

· 平面図 · 立面図

給湯器、混合水栓等の給水装置、既設管、新設管、自家水道等、管種が 明確に判別できるように製図願います。

出来る限り、青色[水]、赤色[湯]、緑色[井戸水]、既設管[破線]、新設 管[実線]、等凡例を明記して下さい。

縮尺は任意とします。

自家用水道を上水道に切替える申請時には、上水道と自家用水道が切り 離されていることがわかる図面を提出して下さい。

量水器 1 次側の配管については、漏水修理や配水管布設替工事の際に参 考書類としますので、形状寸法や使用材料等の記入をお願いします。

·屋外(屋内)配管使用材料調書

配水管の分岐から量水器1次側までの材料を屋外材料調書に記入して下さい。

量水器2次側から給水栓までの材料を屋内材料調書に記入して下さい。 日本水道協会HP上で機器の確認が取れるように、器具の規格等の欄に は、品番等又は規格・型式・認証番号を記入して下さい。

・道路(河川)占用許可申請書 (3部)

大井上水道企業団企業長名で当企業団より道路(河川)管理者に提出します。(道路使用許可申請書は、工事事業者で申請して下さい)

各管理者へ許可申請書内容の確認を取ってから当企業団へ提出して下さい。

・建築確認済証の写し

建築確認を必要とする建築物の給水装置工事を行う場合に(第1面のみ) 添付して下さい。

申請中の場合には□に☑を付けて、後日許可が下り次第必ず提出して下さい。

• 私有地埋設承諾書

配水管から給水管を引き込む際、やむを得ず、他者の所有する土地に埋設する場合に添付して下さい。

同一区画内に別棟を建築する際も、土地所有者と給水装置所有者間で必要とします。

なお、申請する場合は、事前協議が必要となります。

· 給水管所有者分岐承諾書

企業長の布設していない水道管(私設給水管)からやむを得ず分岐する 場合に添付して下さい。

なお、申請する場合は、事前協議が必要となります。

• 給水装置一部先行工事等注意事項承諾書

宅地造成等により、止水栓及び量水器ボックスまでの屋外工事を先行する(水道使用の目処が立っていない)場合や使用しない既存給水管を残存させる場合は、出水不良や漏水の恐れがあり、当企業団では対応いたしかねますので、申請者及び給水装置所有者了承のもと本承諾書を添付して下さい。

なお、申請する場合は、事前協議が必要となります。

・給水管管理に関する承諾書

量水器ボックスの設置位置に関し、規定値から外れる場合に添付していただきます。

なお、申請する場合は、事前協議が必要となります。

• 小規模貯水槽水道台帳 (1部)

受水槽を設置する場合、有効容量合計10m³以下の場合に提出して下さい。

なお、申請用紙は協議時にお渡しします。

·簡易専用水道台帳 (2部)

受水槽を設置する場合、有効容量合計10m³以上の場合に企業団経由で提出します。

なお、申請用紙は協議時にお渡しします。

(4) 事前協議について

- 事前協議が必要な場合
 - (1) 土地利用事業承認が必要となる開発行為に供する給水装置工事。
 - (2) アパート等の集合住宅を建築しようとする場合。
 - (3) 私有地埋設承諾書・給水管所有者分岐承諾書等の承諾書を必要とする場合。
 - (4) 宅地分譲の給水装置工事(共用管となる場合)。
 - (5) その他一般住宅以外(工場、病院、デパート等)の給水装置工事。

- ・一般住宅に係わる事前協議 別紙資料1を参照して下さい。
- ・事前協議書が必要となった場合に提出する書類
 - *事前協議書の鏡
 - *位置図
 - *計画図面
 - *管網図
 - *給水量算定根拠計算書

計画使用水量に対して引込み口径が適切であるかを判断させていただきます。

(5) 給水申込申請に伴う手数料

• 審查手数料

配水管から分岐をする場合に、加入物件 1 件あたり、千円を徴収させていただきます。

例:宅地分譲による3件分の共用管を布設時は、三千円を徴収します。 アパート等の集合住宅の場合は、量水器の個数分を徴収します。

2. 給水装置工事検査申請について

- (1) 添付書類について
 - 原則事項

提出書類の用紙サイズはA4とします。

給水装置工事完了後、速やかに提出して下さい。

給水装置工事検査申請書

給水工事完了年月日について、仮設工事の場合は、工事が完了次第提出して下さい。

確認項目チェック表も忘れず提出をして下さい。

- ・給水装置工事申込書(副)の写し、案内図、管網図 給水申込申請時に添付したものを提出して下さい。
- ・平面図、立面図、屋外・屋内材料調書 竣工時の使用数量を記入し、提出して下さい。
- ・水圧テスト実施状況写真

分水工事や量水器2次側以降を施工した際には、必ず提出して下さい。

· 占用工事完了届

占用工事完了届提出時に以下の写真添付をお願いします。

- *着工前後
- *配管状況
- *一層ごとの埋め戻し状況
- *仮舗装、本舗装施工状況

*本舗装の復旧面積が確認できる写真

提出書類の詳細については、各管理者のホームページを参照して下さい。

(2) 給水装置工事の竣工に伴う水圧テストについて

• 屋外工事

サドル付分水栓~第一止水栓(ベストップバルブ)までの耐圧試験について

試験水圧 1.0MPa の静水圧を 5 分間加え水漏れ、変形、破損その他異常を生じていないこと(試験時の写真を添付)。

チーズによる取出しの場合には試験が困難であることから、耐圧試験は免除とします。但し、継手部での漏水等がないようより入念に施工して下さい。

• 試験方法

- ① 配水管上にサドル付分水栓を設置する。(穿孔しないこと)
- ② 第一止水栓(ベストップバルブ)まで配管する。
- ③ サドル付分水栓上部にテストポンプを取りつける。
- ④ 第一止水栓(ベストップバルブ)より十分に空気を抜き止水する。
- ⑤ テストポンプにより徐々に試験水圧に加圧する。
- ⑥ 試験水圧に達したら、テストポンプのコックを閉じ、試験時間を 保持。(ゲージを撮影)
- (7) 試験時間経過した後、異常のないことを確認。(ゲージを撮影)
- ⑧ 第一止水栓(ベストップバルブ)から徐々に減圧してからテストポンプを撤去する。
- ⑨ 配水管に穿孔する。
- ⑩ 埋め戻し(占用工事の場合、埋め戻し材毎の写真撮影を行うこと)

• 屋内工事

量水器〜給水栓までの耐圧試験について

主任技術者の判断により、当該配水管の最大静水圧に水撃圧を加算した、試験水圧とし、試験時間を設定して下さい。

原則は、給水装置の構造及び材質の基準に関する省令(平成9年3月19日 厚生省令第14号)第一条に定められた、1.75MPaの静水圧を一分間加え、水 漏れ、変形、破損その他異常を生じていないことを確認してください。

但し、同条第二号及び第三号に掲げる給水用具等は、バルブを閉じてから 試験するようにお願いします。

なお、第四号に掲げる給水器具が含まれる場合には、さらに、0.02MPa(20KPa)の静水圧を一分間加えて確認を行って下さい。

(3)検査完了時に伴う手数料について

・検査手数料の納付

配水管から分岐した工事の場合に徴収します。検査終了後に当企業団が納付書を発行しますので、手数料の納付をお願いします。

審査手数料と同様、加入物件が1件あたり、千円を徴収させていただきます。

(4) 手直し工事について

・ 手直し工事

企業団検査員による検査において手直しが必要と判断された場合には、速 やかに補修、変更等の作業を実施し完了を書面にて報告して下さい。

例:量水器ボックス内において、量水器2次側のガイドナットがボックス 内の壁に当たっている場合。

ベストップバルブ伸縮部分を伸ばした状態で施工していない場合。 量水器ボックス内に雨水等が溜まっている場合。

3. その他

・その他ご不明な点はその都度お問い合わせ願います。

資料1

一般住宅に係わる新設及び改造申請であっても事前協議が必要になる場合

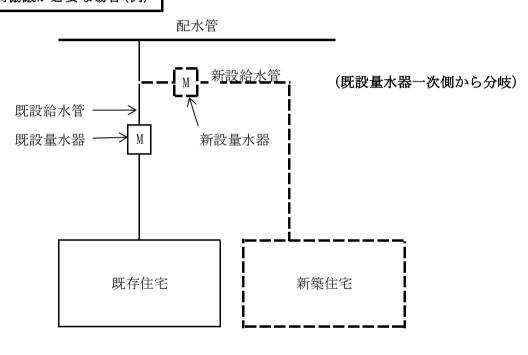
一般住宅に係る給水装置の新設及び改造申請にあっても、既設給水管から分岐を行い別棟の新築住宅へ給水する場合には、事前協議をお願いします。

事前協議時には、申請箇所付近の最小動水圧、既設給水管の口径、既存住宅及び新築住宅の給水栓状況を調査のうえ、2012水道施設設計指針(P. 702表-9.2.1, P. 703表-9.2.6)による同時使用量の計算書を添付して申請してください。

計画使用水量に対して、既設給水管の口径が適切であるか判断させていただきます。

なお、一区画に一分岐の原則から、基本的に既設給水管からの分岐は認めておりません。

事前協議が必要な場合(例)



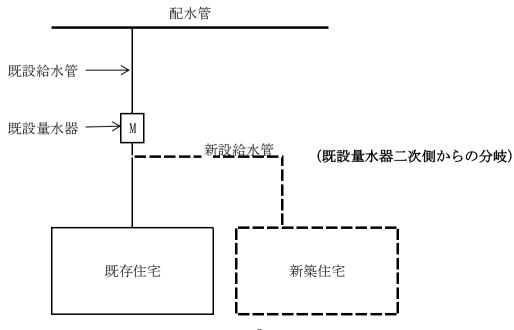


表-9.2.1を適用して合算する。

一般的な給水用具の種類別吐水量は、表-9.2.2のとおりである。また、給水用具の種類に関わらず吐水量を口径によって一律の水量として扱う方法もある(表-9.2.3参照)。

② 標準化した同時使用水量により求める方法

この方法は、給水用具の数と同時使用水量との関係についての標準値から求める方法である。次式のように給水装置内のすべての給水用具の個々の使用水量を足し合わせた全使用水量を給水用具の総数で除した値に、同時使用水量比(表-9.2.4)を乗じて求める方法である。

同時使用水量=給水用具の全使用水量÷給水用具総数×同時使用水量比

- (2) 集合住宅等の場合
- ① 戸数から同時使用水量を予測する算定式を用いる方法

同時使用水量=42× (戸数) 0.33 [10戸未満]

同 上 =19× (戸数) ^{0.67} [10戸~600戸未満]

② 居住人数から同時使用水量を予測する算定式を 用いる方法

同時使用水量=26×(人数)^{0.36}[30人以下]

同 上 =13× (人数) 0.56 [31人~200人以下]

同 上 $=6.9 \times (人数)^{0.67} [201人~2000人以下]$

③ 居住人数から同時使用水量を予測する算定式を 用いる方法(調査により提案された新たな方法) 同時使用水量=26×(人数)^{0.36}[30人以下]

同 上 =15.2×(人数) 0.51 [31人以上]

④ 給水用具給水負荷単位により求める方法

この方法は、一定規模以上の給水用具を有する事務 所ビル、集合住宅等の場合に用いる。

給水用具給水負荷単位とは、給水用具の種類による

使用頻度、使用時間及び多数の給水用具の同時使用を考慮した負荷率を見込んで、給水流量を単位化したものである。同時使用水量は、各種給水用具の給水用具給水負荷単位(表-9.2.5)に給水用具数を乗じたものを累計し、同時使用流水量図(図-9.2.1)を利用して求める。

⑤ 各戸使用水量と給水戸数の同時使用率により求める方法

1戸の使用水量を表-9.2.1及び表-9.2.2を使用した方法で求め、全体の同時使用戸数は、給水戸数と同時使用戸数率(表-9.2.6)より同時使用戸数を定め、同時使用水量を求める方法である。なお、この方法は他の方法に比べ過大となるため、用いられることは少ない。

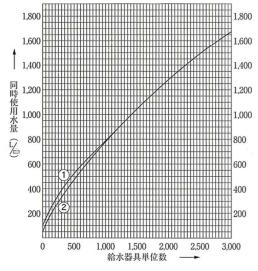
表-9.2.1 同時使	日平を考慮した給水用具数
総給水用具数(個)	同時使用率を考慮した給水用具数(個)
1	1
2~4	2
5~10	3
11~15	4
16~20	5
21~20	6

表-9.2.2 種類別吐水量とこれに対応する給水用具の口径

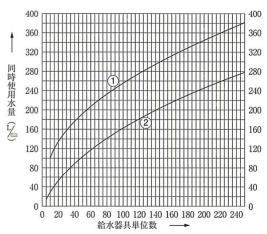
用 途	使用水量 (L/min)	対応する給水 用具の口径 (mm)	備考
しし器) 一))) 器) 水車 しし器) 一)))	$\begin{array}{c} 12{\sim}40 \\ 12{\sim}40 \\ 8{\sim}15 \\ 20{\sim}40 \\ 30{\sim}60 \\ 8{\sim}15 \\ 12{\sim}20 \\ 15{\sim}30 \\ 12{\sim}20 \\ 70{\sim}130 \\ 5{\sim}10 \\ 130{\sim}260 \\ 15{\sim}40 \\ 35{\sim}65 \end{array}$	13~20 13~20 13 13~20 20~25 13 13 13 13 40~50 13~20 25 13 40~50	1回(4~6秒) の吐水量 2~3 L 1回 (8~12秒)の 吐水量 135~16.5 L 業務用

表-9.2.3 給水用具の標準使用水量

	ALL STREET . MARKET	AU-12-000-00 D-12-00-00	
給水用具の口径 (mm)	13	20	25
標準使用水量 (L/min)	17	40	65



① 大便器洗浄弁が多い場合



② 大便器洗浄タンクが多い場合

図-9.2.1 同時使用流水量図 (実用建築給排水設備による。)

表-9.2.4 給水用具数と同時使用水量比

総給水用具数	1	2	3	4	5	6	7
使用水量比	1	1.4	1.7	2.0	2.2	2.4	2.6
総給水用具数	8	9	10	15	20	30	
使用水量比	2.8	2.9	3.0	3.5	4.0	5.0	

表-9.2.5 給水用具給水負荷単位 (SHASE-S 206; 2009)

	nn		-	1.		水栓		器具給水	負荷単位			
	器	4	Ļ	名		水				任	公衆用	私室用
大		1	更		器	洗		浄		弁	10	6
大		1	更		器	洗	浄	9	ン	ク	5	3
小		1	更		器	洗		浄		弁	5	
小		1	更		器	洗	浄	B	ン	ク	3	
洗		Ī	面		器	給		水		栓	2	1
手		ì	先		器	給		水		栓	1	0.5
医	療	用	洗	面	器	給		水		栓	3	
事	務	室	用	流	L	給		水		栓	3	
台	Ī	沂	v	î	L	給		水		栓		3
料	理	ţ	易	流	L	給		水		栓	4	2
料	理	ţ	易	流	L	混		合		栓	3	
食	器	ì	先	流	L	給		水		栓	5	
連	1	合	v	ĺĈ	L	給		水		栓		3
洗	Ī	面	v	ič	L	給		水		栓	2	
(水栓	1	個に	2	き)							
掃	除	J	刊	流	L	給		水		栓	4	3
浴					槽	給		水		栓	4	2
シ		4	۲	7	-	混		合		栓	4	2
浴	室	_	2	3	13	大便器が	洗	净角	-12	よる場合		8
浴	室	-	そ	ろ	61	大便器が	七净	タン	クし	こよる場合	1	6
水		1	次		器	水	飲	4	水	栓	2	1
湯	ì	弗	1	_	器	ボ	-	ルら	ノツ	プ	2	
散	水		•	車	庫	給		水		栓	5	

注 給湯栓併用の場合は、1個の水栓に対する器具給水負荷単位は上記の数値の3/4とする。 空気調和・衛生工学会:空気調和・衛生工学便覧第14版、第4巻、pl16 (平22)

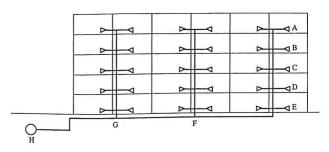
表-9.2.6	給水戸数と総同時使用率

総戸数	1~3	4~10	11~20	21~30	31~40	41~60	61~80	81~100
総同時使用率 (%)	100	90	80	70	65	60	55	50

〔参考9.2〕 同時使用水量の計算例

集合住宅における同時使用水量の各種算定方法による計算例 を次に示す。

- (1) 建物の条件(参考図-9.2.1参照)
- ① 5階建て30戸の集合住宅とする。
- ② 各戸の給水用具は、台所流し、洗面器、浴槽、シャワー、 大便器洗浄タンクの5栓とする。
- ③ 計画人口は、1戸当たり4人とする。
- (2) 計算例に示す算定方法及び算出諸元 (参考表-9.2.1参照)



参考図-9.2.1 建築概要図

(3) 同時使用水量の算出 (参考表-9.2.2参照)

2) 直結増圧式給水の計画使用水量

直結増圧式給水を行うに当たって同時使用水量を適 正に設定することは、適切な給水管管径の決定及び増 圧給水設備の適正容量の決定に不可欠である。これを 誤ると、過大設備の導入、エネルギー利用の非効率化、 給水不足の発生などが起こることがある。

同時使用水量の算定方法としては、前述の方法のほか、表-9.2.7を参考にする方法、水使用時間率と器具給水単位による方法、器具利用から予測する方法があるが、各種算定方法の特徴を熟知した上で実態に応じた方法を選択する。この際には、「直結給水システム導入ガイドライン」が参考となる。

直結増圧式給水の導入に当たって、水道事業者は同時使用水量の算定方法を施行基準等に定めることが望ましい。

2. 受水槽式給水の計画使用水量

受水槽式給水における受水槽への給水量は、受水槽の容量と使用水量の時間的変化を考慮して定める。一般に受水槽への単位時間当たり給水量は、1日当たりの計画使用水量(計画1日使用水量)を使用時間で除した水量とする。

計画1日使用水量は、建物種類別単位給水量・使用時間・使用人員(表-9.2.7)を参考にするとともに、 当該施設の規模と内容、給水区域内における他の使用 実態などを十分考慮して設定する。

計画一日使用水量の算定には、次の方法がある。

参考表-9.2.1 算定方法及び算出諸元

方式	算 定 方 法	算 出 諸 元	備考
1	戸数から同時使用水量を予測する算定式を用いる方法	10戸未満:42×(戸数) ^{0.33} (L/min) 10戸~600戸未満:19×(戸数) ^{0.67} (L/min)	
2	居住人数から同時使用水量を予測する算定式を用いる方法	30人以下:26×(人数) ⁰³⁶ (L/min) 31人~200人以下:13×(人数) ⁰⁵⁶ (L/min)	14.
3	居住人数から同時使用水量を予測する算定式を用いる方法(置 査により新たに提案された方法)	30人以下:26×(人数) ^{0.35} (L/min) 31人以上:15.2×(人数) ^{0.51} (L/min)	3)
	給水用具給水負荷単位により求める方法	・台所流し : 3 ・洗面器 : 1 ・浴 槽 : 2 ・シャワー : 2 ・大便器洗浄タンク : 3	表-9.2.5 (私室用)
(5)	各戸の使用水量と給水戸数の同時使用率により求める方法	・台所流し : 12L/min(※) ・洗面器 : 8L/min (※)同時に使用する給水用具 ・浴 槽 : 20L/min : c設計 ・シャワー : 8L/min(※) 計32L/min ・大便器洗浄タンク : 12L/min(※)	表-9.2.1 表-9.2.2 表-9.2.6

給水管布設例

